

「障害者スポーツ推進プロジェクト」
(地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業)
委託事業成果報告書



2021年3月

長野県

(長野県障がい者スポーツ推進プロジェクト実行委員会)

目 次

I	事業背景	・・・ 2
II	事業実施の目的、体制	
1	事業目的	・・・ 2
2	事業実施体制	・・・ 2
III	事業内容	
1	主な事業の実施結果	・・・ 4
2	内 容	
(1)	障がい者スポーツ体験会指導者等派遣システム構築	
①	各種競技の指導者養成のための体験会等の開催	
	フットベースボール体験会	・・・ 5
	車いすバスケットボール体験会	・・・ 8
	ボッチャ審判スキルアップ講習会	・・・ 12
②	障がい者スポーツ指導者の活性化	・・・ 14
(2)	総合型地域スポーツクラブ等を活用した障がい者スポーツ拠点づくり事業	・・・ 15
(3)	各種パラスポーツを紹介する動画等の作成	・・・ 22
(4)	関連する取組	
①	みらいアスリート育成支援事業	・・・ 23
②	パラスポーツを題材にした教育プログラムの作成	・・・ 24
IV	今後の展望等	
1	評価・分析等	・・・ 25
2	反省点	・・・ 25
3	今後の課題、施策の方向性	・・・ 25

本報告書は、スポーツ庁の障害者スポーツ推進プロジェクト委託事業として、長野県が実施した令和2年度障がい者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）の成果を取りまとめたものです。従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

I 事業背景

障がいのある人にとって、スポーツは社会参加への第一歩であるとともに、地域における交流の機会としても重要である。しかし、本県でも他の地域と同様に、スポーツをする障がい者は減少傾向にあり、県障がい者スポーツ大会等への参加者数は10年前と比較し、約2割減少している。また、本県は県土が広く、市町村数が多いこともあり、地域によって障がい者スポーツに対する取組に温度差がある。

このような現状の中で、2028年に本県で全国障害者スポーツ大会の開催が予定されており、この大会の開催に向けた選手発掘・育成強化、指導者や障がい者スポーツを支える人材の養成を進めていく必要があるとともに、障がい者が身近な地域でスポーツに親しむ環境づくりが急務となっている。

<現状と課題>

- 潜在的な障がい者のスポーツ・文化活動のニーズに対応できていない
- スポーツに取り組みやすいきっかけづくりの不足
- 障がい者スポーツの競技用具の整備の遅れ、体育施設等の確保困難
- 障がい者スポーツを指導できる人材の不足、障がい者スポーツ指導員の活動が低調、競技スポーツの専門性が低い

II 事業実施の目的、体制

1 事業目的

これまでも市町村や総合型地域スポーツクラブ等が、それぞれで障がい者等へのスポーツ体験を実施してきたが、県土が全国で4番目に広く、市町村数も77と多い本県では、関係する機関と連携しながら県全体で魅力ある一体的な普及啓発活動を行う必要がある。

それと同時に、障がい者スポーツを楽しめる機会や場所、障がい者スポーツを担う人材を新たに掘り起こすことで、県民が障がい者スポーツを楽しめる機会を拡大し、身近な場所でスポーツを楽しめる環境を整備していくことが求められている。

2 事業実施体制

(1) 長野県障がい者施策推進協議会 障がい者スポーツ部会（以下「スポーツ部会」）

- ・目的 2028年全国障害者スポーツ大会長野大会実施に向けた施策の企画立案、評価・検証
- ・委員 15名（大学関係者、市町村、障がい者スポーツ関係者、スポーツ関係者、公民館等）

(2) 長野県障がい者スポーツ推進プロジェクト実行委員会（以下「実行委員会」）

- ・目的 スポーツを通じた共生社会づくりに向けた事業実施、実施結果の検証、成果のとりまとめ、課題解決に向けた分析
- ・委員 15名（県、県教育委員会、大学関係者、障がい者スポーツ関係者、スポーツ関係者、公民館、社会福祉関係者等）
事務局：県障がい者支援課
- ・会議開催状況

第1回実行委員会

日 時：令和2年8月

開催方法：新型コロナウイルス感染症の影響により書面決議により実施

議 題：会則の変更、令和2年度の事業計画案及び収支予算案

第2回実行委員会

日 時：令和3年2月25日（木） 14時00分～16時00分

開催方法：Zoomによるオンライン会議

議 題：令和2年度事業の途中報告、令和3年度の事業計画案及び収支予算案、
パラウェーブ NAGANO のビジョン、実行委員会の名称変更

長野県障がい者スポーツ推進プロジェクト実行委員会 委員名簿

	役職	氏名	所属
1	委員長	土屋 智則	長野県健康福祉部長
2	副委員長	犬飼 巳紀子	長野県レクリエーション協会 副会長
3	委員	金子 和夫	長野県スポーツ推進委員協議会 副会長
4	委員	加藤 正	(公財) 長野県障がい者スポーツ協会 障がい者スポーツ地域コーディネーター
5	委員	小松 昌久	(公財) 長野県障がい者スポーツ協会 理事
6	委員	篠原 利典	長野県障がい者スポーツ指導者協議会 会長
7	委員	平林 晃	長野県公民館運営協議会 副会長
8	委員	宮本 伸一	長野県スポーツ協会 事務局長

9	委員	橋本 政晴	信州大学教育学部 講師
10	委員	辺見 元孝	長野県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会理事
11	委員	山崎 珠美	長野県障がい者福祉センター スポーツ課長
12	委員	金子 知史	(公財)日本財団パラリンピックサポートセンター ディレクター
13	委員	原 佳正	長野県社会福祉協議会事務局長
14	委員	北島 隆英	長野県教育委員会事務局 スポーツ課長
15	監事	轟 寛逸	(公財)長野県障がい者スポーツ協会 常務理事

Ⅲ 事業内容

1 主な事業の実施結果

実施時期	障がい者スポーツ体験会指導者等派遣システム構築	総合型地域スポーツクラブ等を活用した障がい者スポーツ拠点づくり	その他の事業
7月	・人材バンクシステム構築の検討	・関係機関・団体と意見交換	・スポーツ庁と契約・業務開始
8月	↓	・障がい者スポーツ拠点づくりの公告開始	
9月	↓ ・フットベースボール体験会		・障がい者スポーツ競技を紹介するホームページの作成
10月		・3クラブと委託契約、事業開始	
11月	・ポッチャ審判スキルアップ講習会①		・教育プログラムへパラリンピアン派遣
12月	・車いすバスケットボール体験会		・障がい者スポーツを紹介する動画作成
1月			↓ ・教育プログラムへパラリンピアン派遣
2月	・NAGANO パラ★スポーツデーへポッチャ指導員派遣		
3月	・伊那東小学校へポッチャ指導員派遣	↓ ・業務完了、業務集約	・成果の取りまとめ、分析 ・成果報告書作成、冊子完成

2 内 容

(1) 障がい者スポーツ体験会指導者等派遣システム構築

県土の広い本県は、障がい者スポーツの体験会等への指導者派遣依頼があっても、指導者が不足しているため、派遣できる指導者がいない、又はいつも同じ指導者に限定されてしまう状況にある。

こういった課題を解決するため、各障がい者スポーツを指導できる指導者や審判養成を目的に、

本年度はフットベースボールと車いすバスケットボールの体験会と、ボッチャ審判講習会を実施した。

また、指導者や審判派遣依頼に対応できるように、体験会受講者を中心に名簿の整理を行い、指導者の活性化を図った。

①各種競技の指導者養成のための体験会等の開催

〔フットベースボール体験会〕

○目 的

フットベースボールというスポーツを知り、フットベースボールの普及・振興を通じて、障がい者の社会参加を支援する人材を育成する。

○県内のフットベースボールの現状と課題

選手関係

- ・県内にフットベースボールのチームは、安曇野レッズのみ
定期的に試合ができる練習相手が必要
- ・選手は 30～40 代が主力メンバー
若い選手の発掘が課題で、安曇野レッズの監督である中平氏が勤務先の学校等で声をかけて選手を集めている
- ・安曇野レッズが普段練習をしている安曇養護学校の校庭は、狭くて、芝生が生えていたりして、フットベースボールをする環境にはあまり適していない

指導者等

- ・指導者は、チームの監督とコーチの 3 名のみ
- ・北信越・東海ブロックの全スポ予選は、各県の持ち回りで開催しているが、本県は審判員がいないため、大会が開催できない
- ・指導者とともに、審判員等の協力者を増やしていくことが課題

○日 時

令和 2 年 9 月 13 日（日） 9:00～12:00

○場 所

池田町総合体育館（北安曇郡池田町大字池田 3 2 1 0-4）

※雨天のため体育館で実施

○参加者数

全体 25 名（安曇野レッズ選手 10 名、参加者 15 名）

○講 師

3 名 安曇野レッズ監督：中平 考、コーチ：宮澤 里志、坂本 大輔

○体験会内容

- 1 開 会
- 2 準備運動
- 3 フットベースボールのルール説明

4 キャッチボール

5 ミニゲーム

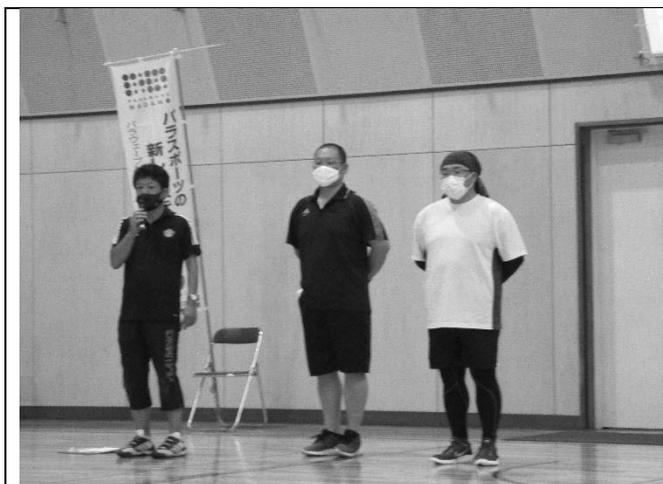
6 閉会

○成果、課題等

- ・当初は、選手や指導者の発掘、今後の審判養成を目的に県内の関係団体等に広く募集する予定であったが、県内の新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、周知先を限定し、中信地区の障がい者スポーツ指導員、安曇野レッズが普段練習拠点としている安曇養護学校の教職員、地元地域の総合型地域スポーツクラブを中心に周知した
- ・参加者は、中信地区の障がい者スポーツ指導員や県の関係者が中心で、地元の総合型地域スポーツクラブからは参加がなかった
- ・2028年の全国障害者スポーツ大会でフットベースボールの会場となる伊那市からスポーツ課体育施設係長、全国障害者スポーツ大会で審判を派遣する長野県ソフトボール協会からは事務局長が体験会を視察
- ・今後に向けて、地元の総合型地域スポーツクラブや地域住民をどの様に巻き込んでいくかは大きな課題となった
- ・今回の参加者が、今後の安曇野レッズの活動に関わったり、県内各地でフットベースボールが盛んに行われるように、今後も継続した取り組みが必要となる
- ・フットベースボールの審判については、県内でジャッジができる審判がいないため、今後の審判養成に向けて、長野県ソフトボール協会との連携が必要である

フットベースボール体験会の様子

2020.9.13 (日) 9:00~12:00 池田町総合体育館



【開会】

講師の方から一言ごあいさつ



【準備運動】

安曇野レッズ選手の指導で体をほぐす



【用具の説明】
4号球のサッカーボールでプレー



【フットベースボール特有のルール説明】
中平監督が分かりやすくルールを紹介



【キックのコツ】
低い打球の方がアウトになりにくい



【キャッチボール】
まずはキャッチボールで肩慣らし



【作戦会議】
試合前に自己紹介と作戦タイム



【ミニゲーム】
打球の行方は・・・



【ミニゲーム】

実際に体験してみると、かなり激しいスポーツ



【ミニゲーム終了】

参加者は全員ヘトヘト



【閉 会】

講師と安曇野レッズ選手からメッセージ！



【集合写真】

全員でガッツポーズ！



〔車いすバスケットボール体験会〕

○目 的

2028 年の本県で開催される全国障害者スポーツ大会で活躍できる選手の発掘、それを支える指導者や審判となりえる人材の発掘を目的に実施する。

○長野県内の車いすバスケットボールの現状と課題

選手関係

- ・県内には2チームが活動をしているが、若い選手が少なく、2028年に本県で開催が予定されている全国障害者スポーツ大会を見据えた選手の発掘・育成が必要である

指導者等

- ・指導者とともに、チームを支えるスタッフが不足している
- ・車いすバスケットボールをジャッジできる審判は、県内に2名しかいない

○日 時

令和2年12月12日(土) 13:00～15:00

○場 所

信州スカイパーク体育館（松本市神林 5300）

○参加者数

全体 22 名

○講 師

6 名 長野車椅子バスケットボール協会 長 奥原 明男（メイン）

信州大学車椅子バスケットボール部 下 山 幸、 望 月 樹也、 市 橋 空、
宮 井 佳乃、 釜 谷 葵

○体験会内容

- 1 開会、諸注意
- 2 準備運動
- 3 車いすバスケットボールのルール説明
- 4 講師によるデモンストレーション（3 on 3）
- 5 車いすバスケットボール専用車いす（バスケ車）の乗車体験
- 6 ドリブル、パス、シュート体験
- 7 ミニゲーム
- 8 閉会

○成果、課題等

- ・障がいのある小学生 3 名が保護者とともに参加（地域で障がい者に対して、スポーツやレクリエーションの指導をしているサンスポーツ等からの紹介）
- ・選手発掘を目的に、県内の全小・中・高校、県理学療法士会等に幅広い周知を実施したが、教育委員会・学校経由は効果がなかった
- ・但し、教育委員会・学校経由は、教諭等の参加があった
- ・県理学療法士会経由で理学療法士から 4 名の申込みがあったが、新型コロナウイルス感染症の影響で当日は不参加だった
- ・今後、入院→リハビリ中の選手候補者発掘への情報聴取に向け、医療関係者との連携が重要
- ・障がい者スポーツ指導員が不参加（理由不明）だったことは、今後の大きな課題
- ・サンスポーツまつもとは、来年度車いすバスケットボール体験会を複数回企画立案予定
⇒連携しながら実施することで効果をあげていきたい
- ・今後の審判養成に向けて、一般競技団体の長野県・長野市・松本市バスケットボール協会との連携のきっかけとなった

○その他

- ・本体験会は、公益財団法人 24 時間テレビチャリティー委員会様から寄贈いただいたバスケ車を使用して実施しました。

車いすバスケットボール体験会の様子

2020.12.12 (土) 13:00~15:00 信州スカイパーク体育館



【準備運動】

信州大学の学生の指導により体をほぐす



【全員でバスケット車に乗車】

まずは、実際に競技用車いすに乗車



【バスケット車乗車体験】

実際にボールを手元に置きながら移動



【ドリブル体験】

実施ルールを教えてもらいながら



【シュート体験】

車いすに乗車したままではなかなか届かない



【奥原講師による指導】

分かりやすく、丁寧な指導



【ミニゲーム】
実際に試合へ



【ミニゲーム】
初めての参加者もとても巧みに操作



【ミニゲーム】
上手くパスが繋がらず、思ったより難しい



【シュート！】
小学生はバレーボールを使ってシュート！



【閉会式】
奥原講師から参加者にメッセージ！



【集合写真】
全員で一緒に集合写真



[ボッチャ審判スキルアップ講習会]

○目 的

2028 年の本県で開催される全国障害者スポーツ大会で、審判ができる人材養成を目的とする。

○日 時

1 回目：令和 2 年 11 月 29 日（日） 14:00～16:30

2 回目：令和 3 年 2 月 21 日（日） ※新型コロナウイルス感染症の影響で中止

3 回目：令和 3 年 3 月 13 日（土） ※新型コロナウイルス感染症の影響で中止

○場 所

更埴体育館（ことぶきアリーナ千曲） 2 階 剣道場

（長野県千曲市杭瀬下 2-1）

○参加者数

全体 46 名（会場受講者 34 名、Zoom 受講者 12 名）

その他、手話通訳 2 名配置（ろうあ者 1 名参加のため）

○講 師

3 名 稲部 宗弘（日本ボッチャ協会審判員）

田口 真紀（日本ボッチャ協会クラス分委員）

高野 仁美（長野県ボッチャ協会会長）

○講習会内容

1 回目：令和 2 年 11 月 29 日（日）

1 開講、諸注意

2 全国障害者スポーツ大会の概要

3 稲部氏によるボッチャ概要の説明（パワーポイントによるプロジェクターでの投影）

4 稲部氏による計測・得点カウントの実際（補助は田口氏）

5 ボッチャサポーター構想（案）の説明

6 閉講

○成果、課題等

・感染症対策で、希望者には Zoom で映像を配信

・講義に対するアンケートでは、満足の意見が多かったが、講義のレベルを初心者に合わせたことから、レベルアップを期待していた一定レベル以上の受講者にとっては、物足りない内容となった

・本講習会は、昨年度県で実施したボッチャサポーター養成講座の受講者が中心であったが、質疑応答の際は基本的な内容の質問が多く、全国障害者スポーツ大会のルールでジャッジができる審判の養成には、継続して取組が必要と実感

・次回は審判に必要な技能を実戦形式で学べる場が必要

○講習会実施後のアンケート調査結果概要（対象：会場での受講者）

以下のアンケート結果からボッチャへの競技知識の習得、審判活動への意欲が高い人が多いことが伺える

Q 1 参加目的	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルアップ、競技・審判知識への期待 ・仕事で活用、地域での普及等 					
Q 2 講習会の評価	満足	やや満足	普通	やや不満足	不満	未回答
	21 (61.8%)	4 (11.8%)	3 (8.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (17.6%)
Q 3 ボッチャボールを借りられる環境	有	無	・借用場所は、行政や体育館等の公的施設が多い。			
	25 (83.3%)	5 (16.7%)				
Q 4 身近な地域のボッチャのニーズ	ある	ない	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、障害者施設等 ・障害者団体の活動 ・地区のスポーツ大会や交流大会 			
	16 (59.3%)	11 (40.7%)				
Q 5 ボッチャの普及活動等	している	していない	・体験会等での審判など			
	24 (80.0%)	6 (20.0%)				

ボッチャ審判スキルアップ講習会（第1回） 講習会の様子





②障がい者スポーツ指導者の活性化

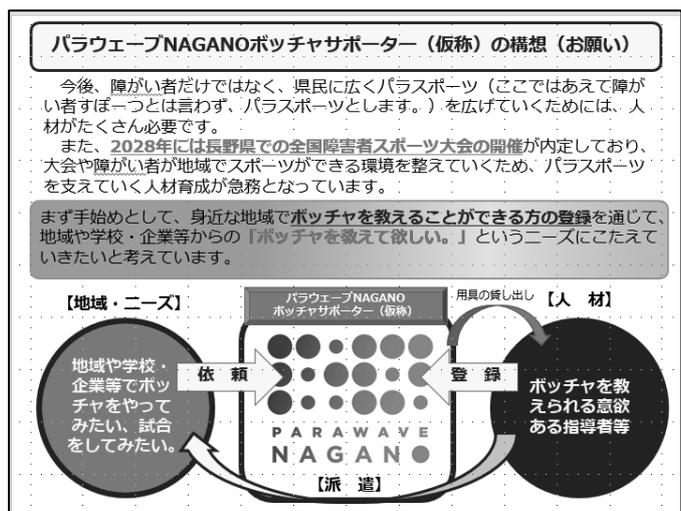
近年のパラスポーツへの関心の高まりもあり、地域でのボッチャ等の体験会実施のために、県に対して指導者派遣の依頼が増えてきている（本年度は新型コロナウイルス感染拡大により、依頼数は減少。）

県には約 450 名の障がい者スポーツ指導員が登録されているが、上記の依頼があっても派遣できる指導者で適任者がいない、又はいつも同じ指導員に限定されてしまっている状況にある。

地域の総合型地域スポーツクラブにおいても、障がい者が参加しているクラブは増加してきてはいるものの、指導できる人材が少ないことから、パラスポーツの体験会や指導者養成講習会の開催を通じて、「障がい者スポーツ人材バンク」（仮称）となるような仕組みの構築を目指している。

【人材バンク構想イメージ】

人材バンク構想を、ボッチャ審判スキルアップ講習会時に説明し、アンケートを実施したところ、回答者 30 名中、全員が「協力したい。」と回答。



〔派遣実績〕

本年度実施した、ボッチャ審判スキルアップ講習会（11月29日）受講者を中心に、下記のとおりボッチャ要員を派遣した。

今後、ボッチャを手始めとして、人材バンクに体験会等受講者を登録し、令和3年度から指導者等派遣を本格的に開始したい。

○NAGANO パラ★スポーツデー

日 時：令和3年2月27日（土）

場 所：ホワイトリンク（長野市真島町真島 2268-1）

依頼内容：ボッチャ大会の運営補助（審判、結果集計等）

派遣人数：12名

○伊那市立伊那東小学校ボッチャ体験会

日 時：令和3年3月15日（月）

場 所：伊那市立伊那東小学校

依頼内容：ボッチャ大会の審判

派遣人数：1名



NAGANO パラ★スポーツデーのボッチャ大会の様子

（2）総合型地域スポーツクラブ等を活用した障がい者スポーツ拠点づくり事業

○目 的

障がいの有無に関わらず、誰もが身近な地域でスポーツを楽しめる環境づくりを推進するため、総合型地域スポーツクラブ等が地域の障がい者福祉施設等と連携して、障がい者に対しスポーツやレクリエーションの体験会を提供することで、障がい者のスポーツ実施環境を整備する。

〔総合型地域スポーツクラブでの障がい者参加の状況調査〕

障がい者の受け入れをしているクラブ数

		2020	2019	2018	2017	2016
ク ラ ブ 回 答 数	受け入れている	20	14	14	9	8
	割合 (総数に対する%)	30.3%	20.9%	20.9%	13.2%	11.8%
	受け入れていない	29	17	12	7	6
	不 明	6	4	6	4	5
	計	55	35	32	20	19
総合型クラブ総数		66	67	67	68	68

○令和2年度の実施状況

障がい者スポーツの拠点づくりに意欲のあるクラブを募集。

令和2年度は以下の3クラブからの申請があり、拠点づくり事業を3クラブへ委託した。

【スケジュール】

2020年9月1日 事業告知開始（長野県体育センターを通じて、県内全総合型地域スポーツクラブに周知）

2020年9月18日 企画書・概算見積書提出期限

2020年9月24日 書類審査

2020年9月25日 見積書の提出依頼

2020年9月29日 見積書の提出期限

2020年10月8日 3クラブと契約・事業の開始
契約クラブ

- ・大かえで倶楽部（池田町）
- ・NPO 総合体操クラブ Wing（松本市）
- ・千曲アプリコットスポーツクラブ（千曲市）

○委託クラブからの実施報告（各クラブからの報告書や県の聞き取りにより作成）

〔大かえで倶楽部（池田町）〕

目 的

2年前から池田町の福祉課と連携し、クラブの中で障がい者が参加できる教室をパンフレットで紹介してきたが、今までにクラブの教室に参加した障がい者はいない。

そのため、本事業をきっかけに障がい者が参加するクラブになることを目的に実施。

対象団体

○安曇野レッズ

知的障がい者のフットベースボールチーム。普段は、池田町にある安曇養護学校で練習をしている。

○北アルプスの風 がんばりやさん

就労継続支援B型 知的障がいや精神障がいのある方

○安曇養護学校

高等部の知的障がいのある生徒

実施内容

○フットベースボール体験会

日 時：2020年12月5日（土）

場 所：高瀬中学校校庭

参加者：安曇野レッズ指導者・選手、池田町スポーツ推進委員、池田町体協野球部員、あずみ病院作業療法士、大かえで倶楽部スタッフ

内 容：安曇野レッズの皆さんを招いて、フットベースボール体験会を実施。ルール説明、練習、ゲームを行った。練習・ゲームでは、安曇野レッズ選手と、一般の参加者で混合チームを作って実施した。当初は、池田町の住民に広く参加者を募集する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、周知先を限定して募集。

○レクリエーション・スポーツ教室（新型コロナウイルス感染症の影響で中止）

場 所：サンアルプス大町

池田町総合体育館

参加者：北アルプスの風 がんばりやさん

安曇養護学校高等部生徒

内 容：リズム体操、ストレッチ、ボッチャ等

連携機関

○安曇野レッズ

○北アルプスの風

○安曇養護学校

○あずみ病院作業療法士

事業実施後のクラブのコメント

○来年度以降、本事業が無くても、今後、年に1～2回ぐらいは安曇野レッズと町民が集まってフットベースボールの試合ができそう。また、安曇野レッズに大会前などに、池田町のグラウンドを提供することに協力していきたい。

○安曇野レッズは普段、安曇養護学校で練習をしているため、あまり人目につくことは少ないが、今回の体験会では、たまたま近くでリレーマラソンをしていたこともあり、多くの人に注目されて刺激になった。

○今まで障がい者スポーツと言われてもイメージが湧かなかったが、実際に体験してみて、障がい者スポーツに対する具体的なイメージが湧くようになり、見る目が変わった。

今後の課題

○障がい者に対して、「どのようなプログラムなら参加できるか」といった知識がないため、例えば、総合型地域スポーツクラブの総会で実施している実技研修会等で、障がい者スポーツを取り上げると、障がい者スポーツを導入するクラブが増えると思う。



安曇野レッズと参加者の混合チームで試合



打球の行方は・・・

〔NPO 総合体操クラブ Wing（松本市）〕

目 的

「ダウン症の子も体操教室に参加できないか」という要望があり、本事業をきっかけに、日本ダウン症協会松本ひまわりの会と連携し、ダウン症の子供が参加できる体操教室の構築を目的に実施。

対象団体

○日本ダウン症協会長野松本支部松本ひまわりの会

実施内容

○運動教室

日 時：2020年10月17日（土）、11月7日（土）、12月5日（土）

2021年1月30日（土）、2月13日（土）、3月6日（土）

場 所：松本養護学校、松本市入山辺公民館、松本市総合体育館、

療育施設みらい

参加者：日本ダウン症協会長野松本支部松本ひまわりの会

内 容：ストレッチ、手具（リボン、ボール、フープ）を使っての体操、トランポリンを実施。全て親子で一緒に実施した。

連携機関

○日本ダウン症協会長野松本支部松本ひまわりの会

○療育施設みらい

○松本トランポリン協会

事業実施後のクラブのコメント

○ダウン症児の親は、周囲の人に迷惑をかける等の理由で遠慮し、外に出ない人が多い。その結果ダウン症児は、色々なことを経験できる機会が少なくなっている。本事業をきっかけに、新たなことを経験できた。また、学校や施設しか繋がりが無いダウン症児が多いが、今回新たな繋がりができたことに感謝する方がいた。

○本事業をきっかけに、やってみればいろいろできることに気が付き、新たに卓球に挑戦する子どももでてきた。

○なかなか集中が持続しない子どもでも、トランポリンだと集中でき、終わった後、家に帰っても気持ちが落ち着いている子がいた。

○親子で行うことで、様々な運動を安心して指導できた。

○リボンやボール、フープを持つことで、興味がわき集中が持続した。

今後の課題

○来年度、本事業が無くても教室は継続する予定。トランポリンも実施予定。しかし、参加者からはあまり参加費をいただけない。事業を継続していくためには、助成金がないと難しい。

○障がいの程度は、一人ひとりみんな違う。様々な障がい種別や、障がいの重い子への対応方法を学べる機会があるとよい（例えば、養護学校の体育を見学に行く）。

○障がい者を受け入れようとしているクラブは、たくさんあると思う。障がい者スポーツを導入する際に、各クラブでやっている教室をどのように工夫すれば障がい者も参加できるのかを考えていくことが重要。



フープを使うことで集中が持続！



初めてのトランポリンの感触は・・・

〔千曲アプリコットスポーツクラブ（千曲市）〕

目 的

元々、障がい者スポーツの導入に興味があり、7年前から吹き矢教室をしていたが、5年前に吹き矢教室が独立した。その後、障がい者スポーツを実施していなかったが、昨年度、クラブの会長が障がい者スポーツ指導員の資格を取得し、今回の事業を実施した。

対象団体

○いなりやま福祉会（満天の星、はなたば、いなりやま共同作業所）

生活介護事業や就労継続B型事業

知的障がい者

○千曲市社会福祉協議会

千曲市在住の障がい者

実施内容

○障がい者スポーツ大会

日 時：2020年11月11日（水）

場 所：戸倉体育館

参加者：千曲市社会福祉協議会会員

内 容：ヨガ、エアロビクス、ボッチャ、スマイルボール等

○レクリエーション体験会

日 時：2020年10月21日（水）、10月29日（木）、11月4日（水）、

11月11日（水）、11月18日（水）、11月25日（水）、

12月2日（水）、12月16日（水）、12月23日（水）

場 所：千曲市勤労者体育館

参加者：いなりやま福祉会（満天の星、はなたば、いなりやま共同作業所）

内 容：ボッチャ、風船バレー、スマイルボール、テニス等

連携機関

○いなりやま福祉会

○千曲市社会福祉協議会

○千曲市

事業実施後のクラブのコメント

○いなりやま福祉会の方に喜んでほしい、理事長とも「来年度も月に1回程度でも実施してほしい」という話をいただいている。

○千曲市社会福祉協議会の方にも、「来年度もお願いします」という話をいただいている。

○本事業をきっかけに、障がい者スポーツに興味を持ち、障がい者スポーツ指導員の資格を取

得したいと考えている指導者がいる。

○本事業の話を行政で話すと、「2028年の全国障害者スポーツ大会へ向けて、何か取組をしていかなくては」という反応である。

今後の課題

○今後もこの事業を続けていくためには、指導者の謝金等が必要になる。現在、行政等に交渉をしているが、かなり難しい状況。

○来年度以降も本事業を実施する際は、他の施設も巻き込んでいき、ボッチャ大会や風船バレー大会等を実施したい。しかし、体育館から近い福祉施設は参加できるが、体育館から遠い福祉施設は送迎がないと実施が難しい。



風船バレー！チームワークが重要



ミニボッチャ大会！みんなで大盛り上がり！

○総合型地域スポーツクラブ等を活用した障がい者スポーツ拠点づくり事業のまとめ 令和2年度事業の成果

・3クラブとも、それぞれの地域にある障がい者スポーツのニーズを把握して、事業を実施した。

大かえで倶楽部は、クラブがある池田町で練習をしている安曇野レッズとフットベースボール体験会を実施。フットベースボールをしているチームは、県内に安曇野レッズのみであり、練習相手を探していた。

NPO 総合体操クラブ Wing は、「ダウン症の子も体操教室に参加できないか」という声があり、その声に応えて、ダウン症ひまわりの会と連携して体操教室を実施した。

千曲アプリコットスポーツクラブは、地元の社会福祉協議会と福祉施設と連携して実施。

・安曇野レッズが普段練習をしている安曇養護学校のグラウンドは、狭くて、芝生が生えている等の理由から、あまりフットベースボールをするのに適した環境ではない。今回の事業をきっかけに、今後大会前等には、大かえで倶楽部が管理する池田町のグラウンドを借りることができる予定となった。

- ・3クラブとも本年度実施した教室を、令和3年度も継続していく予定。

事業の課題

- ・3クラブとも来年度以降事業を継続していく予定だが、そのためには財源がないと難しい。また、障がい者を対象にする場合、障がい種別等の理解といったような問題もある。
- ・市町村によって、総合型地域スポーツクラブとの結びつきに大きな差がある（例えば、市の体育館の利用のしやすさ等）。

今後の県の方向性

- ・年々、障がい者を受け入れているクラブ数は増えている。しかし、障がいのある方が身近な地域でスポーツを楽しめる環境を整備していくためには、今後も本事業のような取組を継続していく必要がある。
- ・各障がい種別に対する対応方法を学べる場や、障がい者スポーツのノウハウを提供できる実技交流の場の検討が必要。
- ・クラブのスタッフの方に、県で実施する体験会や、障がい者スポーツ指導員養成研修に興味を持ってもらえるように、引き続き周知を実施していく。
- ・障がい者スポーツの拠点となっているモデルクラブを構築し、その情報を各クラブに横展開していく仕組み・取組の検討が必要。
- ・市町村を巻き込んだ障がい者スポーツ拠点づくりの検討が必要。

(3) 各種パラスポーツを紹介する動画等の作成

これまでパラスポーツを報道等で見たりすることはあっても、身近な地域で行われている体験会の様子や選手の活動の様子を直接目にする機会はほとんどなかった。そのため、今年度県で実施した体験会等の様子を撮影し、その映像を今後実施する体験会等で活用、各障がい者スポーツの魅了や練習方法を伝えることを目的に手作りの動画を作成した。

また、長野県障がい者スポーツ協会のホームページに、各種障がい者スポーツの競技を紹介するページを制作した。

①動画作成

1	知的障がい者ソフトボール練習会	15分程度 & 1分半
2	フットベースボール体験会	
3	車いすバスケットボール体験会	



②ホームページ作成

これまで長野県には、障がい者スポーツ競技を統一的に紹介する場がなかったことから、障がい者スポーツ競技団体を統括する長野県障がい者スポーツ協会と共に、障がい者スポーツの代表的な 21 競技を紹介するホームページを作成、公開した。



〔公開先〕

公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会ホームページ

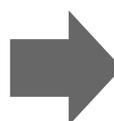
アドレス : <https://www.nsad.or.jp/sports-top>

(4) 関連する取組

①みらいアスリート育成支援事業

長野県では、特別支援学校卒業後のスポーツ活動の継続が課題である。そのため、特別支援学校での体験会等の開催により選手を発掘し、その発掘した選手を地域のスポーツ関係者に結び付ける等の「みらいアスリート育成支援事業」を実施している。令和2年度は、県内に活動しているチームがない、知的障がい者のソフトボールチームづくりを、関係団体と連携し実施した。

- ①障がい福祉事業所等と連携し練習会実施
 - ②健常者競技団体、総合型クラブ、障がい者スポーツ指導員、特別支援学校、行政（福祉・スポーツ）等が練習会に協力（連携）
 - ③練習場所の確保、月1回練習会の継続
- 【R3目標】
知的障がい者ソフトボールチーム結成
障がい者の競技団体設立



特別支援学校等の卒業後
スポーツ活動継続に向けた
地域の環境整備
(スポーツ実施率向上)

②パラスポーツを題材にした教育プログラムの作成

公益財団法人日本財団パラリンピックサポートセンターと協働で、学校の子供たち向けの意識啓発のための教育プログラムの作成に着手。

子どもたちがパラスポーツを楽しみながら真剣にプログラムに取り組むことで、共生社会創造への気づきを与えることを目的とする。

車いすバスケットボール専用の競技用車いすを活用した独自の体験授業
パラスポーツを用いて、相手への思いやり、コミュニケーションの大切さ、パラスポーツの魅力を学ぶ

開発にあたり、協力いただいた小学校 計6校 179名

実施日	小学校名	参加学年・児童数
11/17	長野市立塩崎小学校	6年生 35名
11/20	木曾町立三岳小学校	3～5年生 8名
11/26	伊那市立伊那西小学校	全学年 53名
12/7	南箕輪村立南部小学校	3年生 23名
2/15	伊那市立手良小学校	3年生 27名
2/22	伊那市立伊那東小学校	4年生 33名



令和2年度実施したトライアルをもとに



令和3年度から、国際パラリンピック公認教材
「I' mPOSSIBLE」と長野県独自の実技科目を組み合わせたパラスポーツ教育プログラムを実施
(長野県内の小学校に周知をしていく)

IV 今後の展望等

1 評価・分析等

「障がい者スポーツ体験会指導者等派遣システム構築」と「総合型地域スポーツクラブ等を活用した障がい者スポーツ拠点づくり」の2つのテーマをもとに、他の事業と連携しながら事業を実施した。本年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、長野県障がい者スポーツ大会等、県内の障がい者スポーツの多くが中止・縮小となり影響を受けた。地域における障がい者スポーツ体験会等を実施する市町村もほとんどなく、人材バンク構想もポッチャに限定するものにとどまった。しかし、できることから事業を実施していく中で、地域のスポーツを支える関係者との繋がりが構築でき、今後到手応えを感じる年となった。

2 反省点

(1) 障がい者スポーツ体験会指導者等派遣システム構築

- ・体験会の周知で、県内の関係団体にチラシを配布したが、会員に情報が届くまでに時間がかかる団体もあった。今後は、遅くとも体験会開催の2か月前までにチラシを配布する必要がある。
- ・車いすバスケットボール体験会では、選手発掘を目的に、県内の全小・中・高校・特別支援学校、県理学療法士会等に周知をしたが、当該機関を通じて選手候補となる参加者の応募はなかった（地域でレクリエーションやスポーツ活動を実施している機関等からの紹介で3名の障がいのある小学生が体験会に参加）。今後、選手候補となる障がい者に体験会へ興味を示してもらうためには、周知先や周知方法の検討が必要。

(2) 総合型地域スポーツクラブ等を活用した障がい者スポーツ拠点づくり事業

- ・本年度事業を委託した3クラブは、来年度以降も継続して事業を実施していく予定。しかし、事業を継続していくためには、財源の確保が大きな課題である。
- ・地域で障がい者スポーツを定着していくためには、市町村の関与が必要。
- ・財政面や人的な面で、障がい者スポーツを導入する余力がないクラブが多い。
- ・障がい者スポーツのノウハウや、各障がい者への対応方法等を学べる機会の確保が必要。

3 今後の課題、施策の方向性

本県では、2028年に全国障害者スポーツ大会の開催が予定されているが、スポーツをする障がい者は年々減少傾向にあり、選手発掘・育成が急務である。また、障がい者が身近な地域でスポーツを楽しめる環境（場所、人、用具等）も不足しており、地域の環境整備は大きな課題であり、今後も継続的な取組が必要である。

更に日本財団パラリンピックサポートセンターと連携し、パラスポーツをを用いて県民の障がいに対する意識変革を進めていく施策を展開していく必要がある。

本年度実施した事業を基盤に、本県の抱える課題と向き合い、2028年の全国障害者スポーツ大会を成功に導けるように、今後も取組を推進していきたい。



パラスポーツの新しい波を起こそう！
パラウェーブ NAGANO プロジェクト推進中

パラウェーブ NAGANO ニュース
Vol.7

発行者：長野県障がい者スポーツ推進プロジェクト実行委員会（事務局：長野県健康福祉部障がい者支援課）

〒380-8570 長野市大字南長野字幅下 692-2

（電話）026-235-7108 （FAX）026-234-2369 （事業担当）大月明 （広報担当）金井大地

**公益社団法人 24 時間テレビチャリティー委員会様から、
障がい者スポーツ用車いすを 10 台寄贈いただきました！
県内各地で体験の機会を提供していきます。**



（写真は左から、みらいアスリートディレクター荻野孝志さん、障がい者スポーツ地域コーディネーター加藤正さん、県健康福祉部障がい者支援課長 高池武史、株式会社テレビ信州事業局長 篠原弘和さん、公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会常務理事 轟寛逸さん）

体験用 10 台が寄贈！

令和2年6月5日（金）、県庁において、公益社団法人 24 時間テレビチャリティー委員会から長野県に、障がい者スポーツ用車いすを寄贈いただくセレモニーが行われました。

これは、同委員会が障がい者スポーツへの理解を深めるために、全国の自治体、小中学校や特別支援学校等へ競技用具を寄贈する企画によるもので、この度長野県がその寄贈先の一つに選ばれました。

寄贈いただいた車いすは、車いすバスケットボールや車いすテニス等で使用することができる体験用モデルになり、フレームカラーが白色5台、赤色5台になります。



どこで使われる？

パラスポーツの中でも人気の高い車いすバスケットボールや、日本人選手の活躍目覚ましい車いすテニスなど、「最近よく耳にするけど、なかなか体験できる機会がない!」「やりたいけど、高価で用具が買えない!」というこれらの競技。

県では、寄贈いただいた車いすを活用して、これらの競技の魅力を多くの方々に触れていただけるよう、体験会への提供な

ど、パラスポーツの更なる普及に努めていきます。

本年度から、県と(公財)長野県障がい者スポーツ協会が実施する「みらいアスリート育成支援事業(※)」において、多くの子供たちが車いす競技の魅力に気が付き、将来、大きな舞台で活躍する選手が育つキッカケとなるように活用していきます。

※みらいアスリート育成支援事業
2027年に長野県で開催予定の全国障害者スポーツ大会を見据えた、令和2年度からの選手発掘事業。
特別支援学校等でパラスポーツ体験会等を開催し、パラスポーツに興味や意欲、潜在力を持った子どもを発掘する。



写真は、みらいアスリートディレクター荻野孝志さん(左)と、障がい者スポーツ地域コーディネーター加藤正さん(右)。この2人が、みらいアスリートに会いに、各市町村を訪れます。

○長野県障がい者福祉センター(サンアップル)が再開します

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、これまで閉館していたサンアップルは、6月2日(火)から、施設の一部を除いて、利用を再開しています。

また、昨年度から耐震工事により利用が中止されていた、屋内プールは7月21日(火)から、体育館は8月1日(土)から利用が再開される予定です。

詳しくは、サンアップルのホームページをご覧ください。

<http://www.avis.ne.jp/~sunapple/>

<開館日・開館時間>

火曜日～土曜日：9時から20時30分まで(通常時より時間短縮)

日曜日・祝日：9時から17時まで

(毎週月曜日・休日の翌日、毎月第2火曜日、年末年始等は休館)

※新型コロナウイルス感染症拡大の防止対策を実施しています。

※利用に際し、対象者、利用人数、時間を制限しています。

発行者：長野県障がい者スポーツ推進プロジェクト実行委員会
（事務局：長野県健康福祉部障がい者支援課）
〒380-8570 長野市大字南長野字幅下 692-2
（電話）026-235-7108 (FAX) 026-234-2369 （事業担当）大月明（広報担当）金井大地

“ 県立9高等学校から、ソフトボールの用具が寄贈！
知的障がい者のソフトボールチーム結成へ ”

○ 用具が寄贈

9月2日、県内の高等学校9校（※1）から、ソフトボール用具（※2）が（公財）長野県障がい者スポーツ協会へ寄贈。用具は部活動や授業で使用されていたもので、県の教育委員会の呼びかけで集められた。

塩野教育次長から用具を受け取った同協会の三村一郎理事長は、「今後の活動に向けて、有効に活用したい。」と感謝を述べた。



（寄贈式の様子）

※1 高等学校一覧

明科高等学校、赤穂高等学校、塩尻志学館高等学校、豊科高等学校、
長野商業高等学校、長野西高等学校、北部高等学校、丸子修学館高等学校、望月高等学校

※2 寄贈された用具

バット62本、グラブ69個、ボール252球、ヘルメット14個、ユニフォーム10着、コンテナ5個、
キャッチャー用具3式、ベース1式、ピッチャープレート1枚、ライン引き2台、ボールキャリアー1台、
ラダーロープ1個、石灰2袋、ベンチ横用具棚1台、Tバッティングネット6個、ホームランネット1個

○ ソフトボールチーム結成へ



（寄贈されたソフトボール用具）

協会は、来る2027年に長野県で開催予定の全国障害者スポーツ大会で実施される7つの団体競技について、長野県代表チームを全て送り出したい考え。その一つが知的障がい者のソフトボール。現在活動チームがないこの競技に対し、協会はチーム結成に動いており、今回の寄贈はこの動きの大きな後押しとなりそうだ。

チーム結成に向けて活動している障がい者スポーツ地域コーディネーターの加藤正さんは「学校から支援をいただけたことは今後に繋がる。」と感謝を述べ、また選手発掘を行う荻野みらいアスリートディレクターは「用具があることで特別支援学校での体験会活動に繋がる。各学校の希望に沿った形を模索していきたい。」とチーム結成に向けた選手発掘への意気込みを述べた。

令和2年度 障がい者スポーツに関するアンケート調査結果 【総合型地域スポーツクラブ】
 県障がい者支援課
 R03.3.9現在

回答数 55 クラブ/66クラブ 回答率: 83.3%
 ※2クラブ休止

Q1 貴クラブの活動(教室やイベント等)に、障がいのある方は参加していますか。	
参加している	20
参加していない	29
わからない(把握していない)	6

「参加している」場合、参加している方の障がい

視覚障がい	6
聴覚障がい	3
車いす使用	5
肢体不自由	27
内部障がい	3
知的障がい	20
精神障がい	4

Q2 上記Q1で「参加している」と回答したクラブに伺います。

(1)障がいのある方が参加している活動はどのような活動ですか。

市町村	クラブ名	活動内容
佐久市	岸野スポーツクラブ	信濃レッドスタズ(身体障害者野球)
軽井沢町	スポーツコミュニティー軽井沢クラブ	ユニバーサルスポーツ祭と県からの委託事業
御代田町	身体能力活性化倶楽部fun	卓球大会
上田市	さなだスポーツクラブ	カルチャー教室、運動系の教室・サークル
伊那市	伊那市総合型地域スポーツクラブ	囲碁、フラワーアレンジメント、スポーツ吹矢
飯田市	南信州クラブ	ラグビー
阿智村	チャレンジゆうAchi	体幹トレーニング、アイフレッヂホッケー(陸上用)練習
喬木村	たかぎスポーツクラブ	フットサル、テニス
上松町	木曾ひのきっ子ゆうゆうクラブ	水泳教室
松本市	松本山雅スポーツクラブ	ブラインドサッカー
松本市	skipまつもと	サッカー
松本市	クラブ「はたっこ」	ミニフットサル
松本市	総合体操クラブWing	
安曇野市	スポネット常念	事務局補佐、ボッチャ指導等
池田町	大かえで倶楽部	フットベースボール
長野市	塩崎スポーツクラブ	スポーツウェルネス吹矢教室
千曲市	千曲アプリコットスポーツクラブ	子どもの体操教室
高山村	高山村総合型スポーツクラブ	卓球
飯綱町	いづなスポーツクラブ	ゴルフ競技1名、卓球競技1名(ただし、夏期は水中ウォーキング)
飯山市	菜の花SUNクラブ	マレットゴルフ

(2)その活動はどのような形態で行っていますか。

障がいのある方を対象としたプログラム	4
一般のプログラム(特別な配慮をする)で健常者と一緒に実施	5
一般のプログラム(特別な配慮はしない)で健常者と一緒に実施	9
その他(具体的に) 身体能力活性化倶楽部fun 障がいのある方が対象のプログラムに健常者が参加	

(3)その活動はどのくらいの頻度で行っていますか。

週2回以上	0
週1回程度	7
月2回～3回程度	5
月1回程度	2
2か月に1回程度	0
年2回～5回程度	2
年1回程度	4

Q3 貴クラブの指導者等で、「障がい者スポーツ指導員」の資格を有している方はいますか。	
いる	8
いない	45

Q4 貴クラブの活動に、障がいのある方が安全に参加するためにマニュアルを作成していますか。	
マニュアルがあり、障がい別に考慮した項目がある。	0
マニュアルはない。	54

Q5 障がいのある方の参加を促進する上で、課題は何ですか(複数回答可)	
障がいや障がい者スポーツに関する知識・技術の不足	37
障がい者スポーツに関わる機会の不足	26
指導者の確保	34
参加者の送迎手段の確保	17
施設のバリアフリー化	9
障がい者スポーツ用具の確保	20
障がいのある方へのアプローチ方法	25
市町村の福祉担当課との連携	15
地域での支援ネットワーク(障がい者スポーツ競技団体、特別支援学校等)	15
特になし	4
その他(具体的に)	
喬木村 たかぎスポーツクラブ	障がい者が参加する際の参加費設定
松本市 skipまつもと	施設の確保
飯綱町 いいづなスポーツクラブ	他組織でも行っているため

Q6 障がいのある方の参加を促進するため、希望する支援は何ですか。(3つ以内)	
クラブ指導者等を対象とした障がい者スポーツに係る研修会	23
障がい者スポーツ指導員の派遣	16
障がい者スポーツ用具の貸出	15
障がいのある方へのアプローチ方法(参加を呼びかけるための広報活動等)	23
地域の支援ネットワーク化(障がい者スポーツ競技団体、特別支援学校等)	18
障がい者アスリートの派遣	5
障がい者スポーツに関する情報提供	19
特になし	6
その他(具体的に)	
富士見町 富士見町地域スポーツクラブ	現状では受け入れは不可能です
南箕輪村 南箕輪わくわくクラブ	受け入れる側の体制(指導者、種目等の計画)作り等
塩尻市 アンテロープアスレティッククラブ	資金
飯綱町 いいづなスポーツクラブ	他の組織団体との連携強化

2021年3月発行

長野県障がい者スポーツ推進プロジェクト実行委員会

事務局：長野県健康福祉部障がい者支援課

電話:026-235-7108 FAX:026-234-2369

E-mail: parawave@pref.nagano.lg.jp

